

令和7年度 第2版

# 長崎県PTA研究大会の手引き



長崎県PTA連合会

## ～ 目 次 ～

第1章 発表単位PTAの研究の進め方 原稿のまとめ方 .....	1
I 研究大会の基本理念 .....	2
II 研究大会の意義 .....	2
III 時代に合ったPTA活動を進める3つの分野 .....	2
IV 単位PTAにおける研究の進め方 .....	4
1 提言発表と課題発表	
2 研究の進め方(目標、手立ての実践、検証、その後の手立て)	
3 単位PTAでの研究の取組と3分野の関係例	
V 大会誌原稿のまとめ方 .....	7
1 大会誌原稿の構成	
2 具体的な書き方	
3 活動の記録と写真	
第2章 研究大会へ向けて .....	12
I 大会誌原稿の様式について .....	13
II 大会規模、運営について .....	15
1 大会の規模	
2 大会宣言に替わる県P連重点活動目標等の大会誌掲載	
3 来賓、レセプション	
4 宿泊を伴う県P研究大会の配慮	
5 宿泊手配について	
6 開会行事について	
7 記念講演・分科会について	

# **第1章 発表単位PTAの進め方 原稿のまとめ方**

## I 研究大会の基本理念

P T Aは保護者と教職員が等しく会員として手を携え、子どもの健全育成という目的に向かって、(ま) 学び合い、(つ) つながり合い、(わ) 分かり合う社会教育関係団体です。

長崎県P T A研究大会（以下県P 研究大会）は、県内各地から会員がつどい、つながり合って学びを深める研修の場として筆頭に挙げられる大切な活動です。

## II 研究大会の意義

県P 連会員がつながり合い学びを深めるためには、時代の流れに応じて子どもの健全育成を前提としたP T Aの活動を工夫していくことが期待されます。研究大会は、(提言・課題) 発表単位P T Aの発表をもとに、参加者全員で意見交換しながらより良い手立て(方法)と工夫を見出していくことにその意義があります。

## III 時代に合ったP T A活動を進める3つの分野

九州ブロックP T A研究大会は、細かく5つの分科会に分かれて提言発表をしますが、長崎県P T A研究大会は、大きく3つの分野に統合して提言するようになりました。

細かいくくりより大きなくくりの方が単位P T Aの裁量範囲が広がり、研究活動に取り組みやすくなります。分野は次の3つになりました。

- 1 大人のつながりを深めることを目標とする分野
- 2 大人の学びを深めることを目標とする分野
- 3 子どもの健やかな成長を支援することを目標とする分野

それでは、分野ごとに詳しく見ていきましょう。

### I 大人のつながりを深めることを目標とする分野

多くの会員が意欲的に活動に参加するように、P T Aの組織を強化したり、作り変えたり、あるいは活動内容を変えたりする工夫を考える分野です。

もちろん、自治会や他の団体とのつながりを深める工夫も大切なことです。

P T Aへの加入は任意であることが浸透している現在では、活動に積極的に参加してもらうことへの手立て(方法)の工夫が必要になっています。

工夫の基本は、まず保護者・教職員にP T Aの活動について理解を深めてもらうことです。

家庭生活を切り盛りすることで手いっぱい保護者・教職員に「何の目的で、この活動をするのか?」「この、活動は本当に必要なのか、役立っているのか?」といった疑問にしっかり答えて、納得したうえで会員として活動してもらわなくてはなりません。

役員を決める作業一つを例にとっても、「この学年から〇〇部に〇〇人を出してもらいます」といった人数ありきの決め方では、保護者会員の不平や不満が噴出する場合があります。

ですからP T Aにはどのような専門部が必要なのか?という根本的な問いも工夫の対象になるのです。多くのP T Aでは、組織づくりや役員決めに工夫を凝らしています。それらの工夫をお互いに紹介し合って、楽しく明るいP T Aを目指しましょう。

それが、下記の手立ての例①となるわけです。

【手立ての例】

- ①単位PTA内のつながりについて、組織を強化する工夫、組織を再編する工夫
- ②PTAの活動(※1)について、会員や地域の皆さんに理解を深めてもらうために広報活動を充実させる工夫
- ③他組織とのつながりでは、地域と協働する手立て(方法)の工夫、町P連・郡P連・市P連と協働する手立て(方法)の工夫、教育行政と連携する工夫

## 2 大人の学びを深めることを目標とする分野

PTA会員が子どもだった頃に親から受けた伝統的な子育て、それを参考にすれば、我が子を育てられる時代は終わりました。子育てする大人には、新しい学びが必要なのです。PTA会員が、より広くより深く学ぶためには、学びの手立てを工夫しなければなりません。それらの工夫を考える分野です。

家庭教育とPTAの関わりについて、長崎県PTA連合会第37代会長の山本道雄は、講演の中で次のように説明しています。「『学校教育法』『社会教育法』はありますが、『家庭教育法』はありません。しかし、家庭教育を学ぶ場があります。それが、PTAです」

保護者会員の多くは、教育学や教育心理学をあらかじめ学ぶなどの準備を整えて子どもを授かったわけではありません。子どもを授かってはじめて、子育ての苦勞と喜びを味わいながら、親(保護者)としての学びが始まるのです。先に述べたように、伝統的な子育てでは不十分なところを、おっとり刀で学びながら親(保護者)として成長していくのです。

PTAとは、教育の専門家である教職員と手を携えて、親(保護者)が家庭教育について学ぶ場なのです。

それらの学びの工夫をお互いに紹介し合って、広く、深く学べるPTAを目指しましょう。

それが、下記の手立ての例となるわけです。

【手立ての例】

- ①子どもの身体と心の成長についての学びの手立て(方法)の工夫
- ②子どもを取り巻く社会環境についての学びの手立て(方法)の工夫
- ③子どもの手本となるための大人自身の学びの手立て(方法)の工夫
- ④学びを实践へつなげる手立て(方法)の工夫

## 3 子どもの健やかな成長を支援することを目標とする分野

研究大会の基本理念でも述べましたが、PTAの目的に「子どもの健全育成」があります。すべての保護者、教職員は、子どもの健やかな成長を願っています。そのために、PTAとして、どのような支援を行っていくかを考える分野です。

PTAでは子どもに正しい人権感覚、愛情豊かな人間性、互いを尊重する社会性などを養うことを目指して、多くの行事を工夫しながら続けてきました。

手立てを工夫した行事が、子どもにどのようなことを身に付けさせたかをしっかり検証する方法も、考えましょう。

それが、下記の【手立ての例】となるわけです。

### 【手立ての例】

- ①子どもに身体を使った遊びや学びを体験させる手立て（方法）の工夫
- ②子どもに身につけさせたい道徳心や公共心を育む手立て（方法）の工夫
- ③子どもに自他を大切にすることを育むことができる手立て（方法）の工夫

### 言葉の説明

- ※1 PTAの活動とはPTA活動とPTA行事を合わせたものを指します。  
(県P安全互助会の手引きを参照してください)
- ※2 児童等とは学校に在籍する児童または生徒を指します。

## IV 単位PTAにおける発表と研究の進め方

### 1 提言発表と課題発表

県P研究大会においては、目標を達成するために工夫した手立て（方法）が役に立ったかどうかの検証結果を発表する「提言発表」と発表する分野についての現状把握を行い、設定した目標を発表したり、目標を設定し、それに向かう出発点となる現状を発表したりする「課題発表」があります。

「提言発表」では、成果を期待して取り組んだ結果、成果が上がる場合もありますが、期待したほど成果が上がらない場合もあります。仮に成果が上がらない場合は、さらにどのような手立て（方法）の工夫が必要なのか？と新たな工夫を考えるスタートラインに立ったと考えましょう。

一方、「課題発表」では、設定した目標や現状を発表した後、その発表をもとに、参加者がグループに分かれ、目標を達成するための工夫した手立て（方法）を考え、全体に発表します。その際、一つにまとめる必要はありません。

発表単位PTAは、そこで出てきた手立て（工夫）の中から選択して、大会後に実践していきます。参加者も、それぞれの単位PTAで実践することが望まれます。

どちらのタイプの発表にしても、仲間の温かい支援を受けて工夫を続けていきましょう。

### 2 研究の進め方（目標、手立ての実践、検証、その後の手立て）

#### 提言発表

#### 課題発表

(1) 目標を設定し、それに向かう出発点となる現状を把握します。逆にまず現状を把握して、その中から改善点を見つけて目標を設定しても良いでしょう。

(2) 目標を達成するための手立て（方法）を工夫しながら実践を進めます。

(3) 手立て（方法）が効果的な取組であったかどうかの検証をします。

(4) 検証結果をもとに、その後の手立て（方法）について、研究の方向性を考えます。

### 単位PTAでの発表の取組と3分野の関係例

ここでは、分野という大きな捉え方の中で、発表をどのように進めればよいかを考えます。

もともとPTAの活動は、子どもを真ん中においてすべての活動が結びついています。ですから一つの活動を「組織運営」「広報」「家庭教育」などのような細かな分け方で区切るより、目的へ向かってのせまり方が活動であると考えた方が手立て(方法)の工夫につながるのです。

子どもを真ん中に置いたせまり方は、P.1にあるように「大人のつながりを深めることを目標とする分野」「大人の学びを深めることを目標とする分野」「子どもの健やかな成長を支援することを目標とする分野」の三つの分野です。

それでは発表することになっている単位PTAは、それぞれの分野で、どのように研究の目標を設定し、現状を把握すればよいのでしょうか？

ある単位PTAが「私たちは、子どものスマホ・タブレットの使い方について考えてみよう」と計画したと仮定して分野ごとの迫り方を考えてみましょう。

以下に三つの分野からの発表の進め方の例を挙げてみます。

- (1) 「大人のつながりを深めることを目標とする分野」から目標を設定し研究を進める例  
(目標)「子どものスマホ・タブレットについて考えるために、大人のつながりを深める」

※この目標が研究テーマになります

(現状) スマホ・タブレットに関する研修会を開いても、参加する顔ぶれが役員ばかりだ  
アンケートでは、スマホ・タブレットの研修会への会員の参加率は20%だ

このように、「つながりを深める」という分野で、PTAのあらゆる専門部が結びついて目標を設定しましょう。現状把握ではアンケート結果などを使って、客観的に把握しましょう。

- (2) 「大人の学びを深めることを目標とする分野」から目標を設定し研究を進める例  
(目標)「大人自らが家庭におけるスマホ・タブレット使用の模範となれるような知識と行動力を身に付けよう」

※この目標がテーマになります

(現状) 子どもには厳しく言うが、大人も食事時にスマホを見ている人が60%だ  
子どもはルールを守る必要がある。大人と子どもは別だと力で押しつけるのではなく、ていねいに説明している大人は20%だ

(工夫) 子どもが利用しているスマホ・タブレットの世界の現状を、大人がきちんと知る  
研修会を開いてみよう

研修委員会と広報委員会が連携して研修会への参加呼びかけを強化してみよう  
(参加意欲が湧くようなチラシを作ってみよう)

スマホ・タブレットの使用について「〇〇中PTA大人のルール」を作って、大人が手本を示す試みを広げよう

会員の関心を高めるために、教養委員会が「スマホ・タブレット大人のルール」  
についての意見を募る企画を立ててみよう

(検証) 参加者が増えた。理由を聞いたところ、「チラシを見て参加」が多かった  
「大人のルール」を守っている家庭は30%であった

(今後) スマホ・タブレットの世界の現状を大人が理解し、家庭で使い方の手本となるよ  
うに心掛けた。その結果、スマホ依存にならないか?と心配していた子どもたちが  
スマホを手にする時間が減ったという家庭が増えた

ただ「スマホ・タブレット大人のルール」が窮屈だという意見があるので、今後は  
実情にあったルールに改良していきたい

このように、「大人の学びを深める」という分野で、PTAのあらゆる専門部が結びつ  
いて研究を進めましょう。検証ではアンケート結果などを使って、客観的に検証しましょう。

(3) 「子どもの健やかな成長を支援することを目標とする分野」から目標を設定し研究を  
進める例

(目標) 「人権を守る立場から、スマホ・タブレットを正しく使える子どもを育てよう」

※この目標がテーマになります

(現状) メールなどの書き込みで傷ついたと回答した子どもが60%だ

メールの書き込みでの悩みを一人で抱え込んでいる子どもが30%だ

(工夫) 人権を守る立場から、教養委員会でコミュニケーションを考えるグループワー  
クを開こう

広報委員会がスマホ・タブレットについて標語コンテストを開こう

執行部が学校や地域と協働して、スマホ・タブレットについて弁論大会を開こ  
う

(検証) メールの書き込みで傷ついたと回答する子どもが30%に減った

一人で抱え込まずに大人に相談した子どもが20%に増えた

(今後) グループワークについては、子どもに好評なので続けたい

一人で抱え込む子どもがまだ多いので、より有効な方法や手段を見つけたい

このように、「子どもの健やかな成長を支援する」という分野で、PTAのあらゆる  
専門部が結びついて研究を進めましょう。検証ではアンケート結果などを使って、客  
観的に検証しましょう。



## V 大会誌原稿のまとめ方

### 1 大会誌原稿の構成

県P研究大会は、従来の細かな分科会に分かれた提言発表ではなく、3つの分野に分けて、研究に取り組みやすくしています。提言発表は、ふだんのPTA活動に工夫を加えて、その工夫が期待通りの良い結果をもたらしたか、あまり期待通りの結果ではなかったかを発表するものです。そして、その骨子となるのが大会誌原稿です。

提言発表原稿は「はじめに」「〇〇学校PTAの組織と活動」「テーマに沿った手立ての工夫とその成果」「今後の課題」「おわりに」の5段階で構成します。

一方、課題発表原稿は「はじめに」「〇〇学校PTAの組織と活動」「本会の課題」「実現したいこと」「おわりに」の5段階で構成します。

### 2 具体的な書き方

#### (1) はじめに

PTA会員の子どもが通う学校の地理的位置、学校とPTAの簡単な歴史、PTAの規模（児童生徒数、PTA会員数、学級数、年間予算等）を記述します。

表記としては、初出の場合は「〇〇学校PTA」とし、その後は「本会」または「本PTA」と記述します。「本校PTA」という表記はしません。

規模の小さい単位PTAでは正会員と地域住民有志の賛助会員に分けて、財源を確保している単位PTAもみられます。その場合は、PTAを構成する会員の資格も記述すると参加者の理解を助けることにつながります。

#### 【はじめに】の書き方例

〇〇小学校PTAは平成3年に学校新設と同時に結成された。児童数は280人、1世帯で1会員であり238世帯のうち保護者会員は219会員で構成されている。教職員会員は26会員である。年間予算は約92万円であり、すべて会員の会費で運営している。

任意加入が前提ではあるが、全保護者の加入を目指している。その手立ての一つとして、受け取りについては任意であることを事前に確認して、未加入保護者へも広報部作成の広報紙を届けている。

本会は共働きの家庭が多いので、各専門部の委員の構成人数はできるだけ少なくしている。しかしながら、広報紙を発行する広報部はなかなか人数を絞れないのが実情である。

学校と連携し、授業参観後に学級PTAを開くことにしている。多くの保護者が参加し、学級役員を中心として「しゃべり場」を設けて、子育て談議に花を咲かせている。

地域の子供会活動はPTA役員OBが中心となっているので、PTAとしては子どもたちの参加という形で協力し、役員としては活動していない。

【九Pくまもと大会波佐見町立波佐見中学校PTAの例】

波佐見町は、長崎県のほぼ中央、東彼杵郡の北部に位置し、県内で海に接しない唯一の町である。人口は約14,500人、地場産業の陶磁器が盛んであり国内第3位を誇る。

近年それを観光に生かし100万人を超す観光客が訪れる観光地となった。町と産業と人の繋がりによって、協働し更なる発展を目指す町である。

また、農業も盛んで、給食など地産地消を推進している。

波佐見中学校PTAは、くまもと大会第2分科会「家庭教育」での提言にあたり本PTA会則の第4条「事業」に示された6つの事業のうち「会員相互の研修と親睦」と「学校教育と連携した家庭教育の充実」の2つの事業に重点を置いて実践を深めることとした。



PTA会則と今回の提言発表を結びつけて、重点的に取り組む活動を示しています

過去の大会誌では学校の教育目標や重点目標、あるいは教育課程の特色等ばかりを詳しく記述し、PTAに関する記述が少ない学校主体の提言発表が見られました。

特に「本校は……」で始まる発表は、学校の視点からの紹介となってしまうがちになるので、学校について書くときは「本校は……」とは記述せず「〇〇学校は」とPTAの視点から記述します。

以下は、過去に多く見られた提言の一部を加工した例です。「本校は」から始まり、学校教育のすばらしい成果並びに学校教育に対して保護者が協力的であることが学校からの視点で記述されています。

【過去の大会でしばしば見られた例】 ※アンダーラインは学校からの視点

本校は市内の北東部の閑静な住宅街にある。平成3年に新設され、市内では比較的新しい学校である。児童数は280人で、目指す学校像「明るさ、素直さ、あいさつ日本一」の通り、地域からも児童がよくあいさつをすると評価が高い。

平成30年から文部科学省と市教育委員会から、タブレット端末を生かした授業実践の研究指定を受け、全校一丸となって取り組んでいる。

保護者は教育に熱心で、学校には大変協力的である。共働きの家庭が多いが、授業参観は教室に入りきれないほど多くの保護者が訪れる。

さらに夏季休業中の「親子ひと汗活動」では、児童と保護者が学校遊具のペンキ塗りをしたり、校内の除草作業をしたりするなど、PTAは学校に協力的である。

## (2) ○○学校PTAの組織と活動

### ①○○学校PTAの目的とテーマについて

PTA会則を読み返して、会の目的と事業をしっかりと押さえましょう。会の目的や事業と、研究のテーマとの関連を整理して書きます。波佐見中学校PTAは、「はじめに」で提言する九Pくまもと大会第2分科会との関連を明記しました。

### ②PTAの目的達成のための本会の組織

PTAは効率よくその目的を達成するために、組織化されていますから、その組織を分かりやすく図をもとに説明します。

### ③専門委員会（専門部）の活動内容

必要に応じて、専門委員会（専門部）の活動を紹介します。しかしページ数が限られていますから、提言発表の内容に関係する専門委員会（専門部）の活動以外は省略することも考えられます。

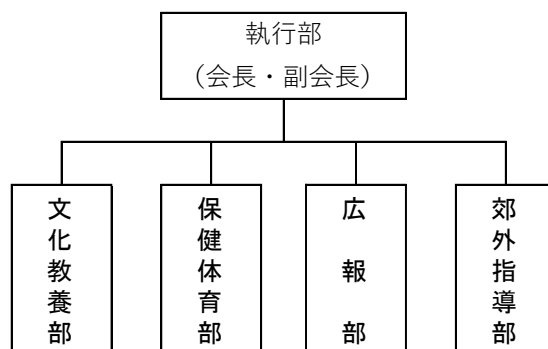
波佐見中学校PTAは、分科会討議題との関連が強い活動に絞って発表したの  
で、広報部の活動は簡潔に記述しています。

従来は、この部分に力を注ぎすぎて、提言の大半が各専門部の年間活動の紹介に終わっている発表がしばしば見られました。研究をどのように進めたかが分かるように研究推進の視点から軽重をつけて紹介します。

## 【九Pくまもと大会波佐見町立波佐見中学校PTAの例】

### 2 波佐見中学校PTA活動の現状 ←「本校PTA」という表記はしません

保護者はPTA活動並びに学校教育活動に大変協力的である。保護者全員がPTAへ入会するとともに、PTA行事や学校行事へ積極的に参加する。研究にあたっては、専門部組織がそれぞれ中心となって企画運営を行った。なお専門部は、文化教養部、保健体育部、広報部、郊外指導部に分かれ活動を行っている。



## ※提言発表の場合

### (3) テーマにそった工夫とその成果

- ① P T A活動の中には長年続いている伝統的な活動も多くあります。その場合は、研究テーマに沿って、目標に達する手立て（方法）の工夫を述べるようにします。
- ② その工夫が有効であったか、アンケートや活動の後の感想を集約して具体的な成果を示します。もちろん有効でなかったという評価もあり得ます。
- ③ 「有効でなかった」という評価も大切な評価です。有効でなかった場合は、課題として次の手立てを工夫する材料とします。

### 【九Pくまもと大会波佐見町立波佐見中学校P T Aの例】

#### (2) 地場産業を活かした、文化教育活動

「波佐見焼を活かした、地域の人たちと生徒たちのコミュニケーション」

##### ① 実践内容

やきもの文化体験は文化教養部が中心となって、学校の総合的な学習の時間としっかり連携した体験活動である。

波佐見町の主要産業は全国的に有名な窯業であり、保護者も窯業に関わっている者が多い。(中略) 授業時間だけではなく、土曜や日曜を利用して約半年間をかけて生徒に体験をさせている。

講師人材としては、文化教養部だけではなく保護者・波佐見中教職員（中略）皆様が大変協力的に関わってくださるので、長年続くP T A事業となっている。

(中略)制作の過程で子どもが感じたことに保護者が耳を傾けるような啓発活動も併せて行った……

主として担当する専門部が分かります。また、くまもと大会第2分科会を受けて、波佐見中P T A会則の重点的な事業の一つ「学校教育と連携した家庭教育の充実」の取組であることが分かります。従来の活動に啓発活動という新たな工夫を加えています。

##### ② 成果

やきもの文化体験について感想アンケートを取ったところ、自分の親の仕事の一端を知ること、やきものを介した親子の会話が弾むようになったという感想が多くみられた。



啓発活動という工夫が、有効な工夫であったことが分かります。

#### (4) 今後の課題

手だて（方法）が効果的であったかどうかの検証をします。検証については「好評であった」と言葉で書くだけではなく、参加者の評価を円グラフで示すなど数値を視覚的に示して参加者の理解を助けるようにします。紙面の都合で視覚的に示せない場合は、発表する際にプレゼンテーションで示します。

また検証を進める中で、手立て（方法）自体に見直すべき課題が見つければ、それを拾い上げて「今後の課題」として記述します。できれば新たな手立て（方法）の案を提示します。

#### (5) おわりに

成果と課題をもとに、研究全体を振り返りながら抱負を述べます。

### 【九Pくまもと大会波佐見町立波佐見中学校PTAの例】

九州ブロックPTA研究大会くまもと大会での提言発表にあたっては、私たちは波佐見中学校PTA会則に改めて立ち返り、先輩諸氏が築き上げた活動の意義を理解し、それらをいっそう充実させるとともに新たな活動を取り込みながら実践を重ねた。

（中略）

今後も全会員がPTA活動の目的をしっかりと共有し、忙しい毎日の中でも充実した活動を推進していきたい。

**今回の提言発表の取組とPTA会則との関連をもう一度確認しています。**

### 3 写真の効果的な挿入について

日頃から、広報紙に掲載できるようにPTA活動の様子を写真に残しているPTAが多いようです。そこで、広報部と打合せをして保護者が活動している様子を中心に撮影しておくように確認しておきましょう。

広報部の活動の一環となりますし、自分の入会しているPTAが県P研究大会で提言発表する予定であることを、広報紙を通して会員へ周知する資料としても利用できます。

写真の下部には、理解を助けるための説明（キャプション）を付けるようにします。

なお大会誌に掲載する際には、肖像権や個人情報の保護に配慮するとともに、掲載することについて本人への許諾の確認をします。



PTA あいさつ運動

## 第2章 研究大会へ向けて

## I-1 大会誌原稿の様式「提言発表」

第〇分科会
「分野の視点にそって研究（工夫）した提言発表テーマ」を書きます ～サブテーマには、テーマに迫る手立て～を書きます
〇〇市町立〇〇小（中）学校PTA 会長 〇〇 〇〇 ※提言者の役職・氏名

### 1 はじめに

〇〇学校PTAは……

〇〇〇

\* 2行開ける

「本校PTA」という表現はしません



### 2 〇〇学校PTAの組織と活動状況

(1) 〇〇〇……

~~本校PTAでは~~〇〇〇

本会（本PTA）では

\* 1行開ける

(2) 〇〇〇……

① 〇〇〇……

〇〇〇

② 〇〇〇……

〇〇〇

③

\* 2行開ける

### 3 手立ての工夫

(1) 〇〇〇……

\* 1行開ける

(2) 〇〇〇……

① 〇〇〇……

〇〇〇

② 〇〇〇……

ア 〇〇〇

イ 〇〇〇

\* 2行開ける

### 4 今後の課題

\* 2行開ける

### 5 おわりに

#### 原稿作成について

##### 1. ページの設定

A4用紙1ページに20字×40行×2段の設定、余白は上下25mm、左右19mmとします。

##### 2. 原稿作成の詳細

(1) 1ページ目の上部枠の中(7行分)に提言者のテーマと手立てを記入します。

(2) 7行目に市町単P名と役職氏名を記入し、市町立学校名と提言者氏名にはルビをふります。

(3) 9行目から本文を記入します。文体は常体です。いわゆる「である」体となります。

※1ページ目は30行×2段となります。

(4) 項目番号(記号)は左記のとおりに統一します。

※アイウエの下の小項目は㊦㊧㊨㊩とします。

(5) 大きい項目と次の項目の間は、2行開けます。

(6) 写真やグラフに関してもページ内に収めます。

(7) 写真やグラフに関しては、データを別途添付してください。

(8) 提言原稿は、この様式で4ページ～6ページとします。(大会実行委員会から指示があります)

(9) 表記は、原稿表記の手引きを参照してください。

## I-2 大会誌原稿の様式「課題発表」

第〇分科会
<b>「分野の視点にそった課題発表テーマ」</b> を書きます ～必要があればサブテーマ～を書きます
〇〇市町立〇〇小（中）学校PTA 副会長 〇〇 〇〇 <b>※提言者の役職・氏名</b>

- 1 はじめに  
〇〇学校PTAは……  
〇〇〇  
\* 2行開ける  
「本校PTA」という表現はしません

2 〇〇学校PTAの組織と活動状況

- (1) 〇〇〇……  
本校PTAでは〇〇〇  
本会（本PTA）では

- \* 1行開ける  
(2) 〇〇〇……  
① 〇〇〇……  
〇〇〇  
② 〇〇〇……  
〇〇〇  
③

\* 2行開ける

3 本会（本PTA）の課題

- (1) 〇〇〇……  
\* 1行開ける  
(2) 〇〇〇……  
① 〇〇〇……  
〇〇〇  
② 〇〇〇……  
ア 〇〇〇  
イ 〇〇〇

\* 2行開ける

4 実現したいこと

\* 2行開ける

5 おわりに（※なくてもよい）

### 原稿作成について

#### 1. ページの設定

A4用紙1ページに20字×40行×2段の設定、余白は上下25mm、左右19mmとします。

#### 2. 原稿作成の詳細

- (1) 1ページ目の上部枠の中(7行分)に提言者のテーマと手立てを記入します。  
(2) 7行目に市町単P名と役職氏名を記入し、市町立学校名と提言者氏名にはルビをふります。  
(3) 9行目から本文を記入します。文体は常体です。いわゆる「である」体となります。  
※1ページ目は30行×2段となります。  
(4) 項目番号(記号)は左記のとおりに統一します。  
※アイウエの下の小項目は㊦㊧㊨㊩とします。  
(5) 大きい項目と次の項目の間は、2行開けます。  
(6) 写真やグラフに関してもページ内に収めます。  
(7) 写真やグラフに関しては、データを別途添付してください。  
(8) 提言原稿は、この様式で2ページ～4ページとします。(大会実行委員会から指示があります)  
(9) 表記は、原稿表記の手引きを参照してください。



## II 大会規模、運営について

### 1 大会の規模

大会規模については、県P連会員数の1%から1.5%とします。ただし前記比率だけではなく、県内各地からの会場への交通アクセスや宿泊が必要となる参加者のための宿泊設備、ウイルス感染症等の考慮をして総合的に判断します。

### 2 大会宣言に替わる県P連重点活動目標等の大会誌掲載

大会宣言は行いません。県P連重点活動目標や活動事項は定期総会要項を通して各单位PTAへはお知らせと協力依頼をしています。しかし県P連総会要項は、全会員の手元には残念ながら届きませんから、県P大会をもって重点活動目標などを会員へ周知する機会とします。

そこで、大会誌には、その年度の県P連の運営方針と活動事項を掲載します。これにより、県全体のPTAの活動の方向性が同じになるように努めます。

### 3 来賓、レセプション

- (1) 長崎県教育委員会教育長は主催者席に座り、県教育委員会を代表してあいさつを述べることとします。
- (2) 開催地の市長は、来賓として来賓席の1番目に座り、歓迎の祝辞を述べていただきます。
- (3) 地元出身県議会議員の招待については、招待するか否かを実行委員が決定します。  
地元出身県議への案内は、全員に案内状を送るかあるいは案内状を送らないものとして統一し地元県議の一部にだけ案内を送ることはしません。
- (4) 元県P連会長は3代前まで案内を出すものとします。
- (5) レセプションは催しません。

### 4 宿泊を伴う県P研究大会の配慮

- (1) 実行委員会は、できるだけ日帰りが可能な企画を立てるようにします。企画にあたっては、実行委員会と県P連正副会長会で緊密な連携を取り、大会の中で短縮できる工程がないかを研究していきます。
- (2) 県P研究大会はすべての会員の研修の場として催される大会です。各单位PTAは、できるだけ多くの会員へ県P大会についてお知らせする工夫をします。研究大会が開かれていることを役員にだけ案内することのないよう努めましょう。「会員がつながり合い、学び合う県P研究大会」を広報する良い機会とします。

### 5 宿泊手配について

- (1) 宿泊は必要に応じ、単位PTAあるいは郡市町PTA連合会でそれぞれ手配します。  
宿泊の必要がある一般参加者は、単位PTAあるいは郡市町PTA連合会で、宿泊の手配をします。宿泊の相談ができる観光協会等の窓口があれば、実行委員会は大会案内（二次案内）で紹介することとします。
- (2) 実行委員会は大会運営上必要な参加者について宿泊を手配します。  
宿泊手配の対象者は提言者（必要に応じて提言補助者）、指導助言者、県P連正副会長、県P連事務局です

### 6 開会行事について

- (1) 開会行事は、次ページの【開会行事ひな型】をもとに、それぞれの実行委員会が開始時刻や会場の構造に合わせて、適宜変更します。

【開会行事ひな型】

時間	項目	場所	担当	進行要領	備考
12:30	開会のことば	演台	〇〇実行委員長	皆様、こんにちは。〇〇市へようこそお越しくださいました。ただいまより……	演台はあらかじめ中央
12:32	国歌斉唱	司会台は下手	司会者	※実行委員長の着席を確認後に国歌の斉唱をいたします。…… (国歌斉唱)	
	PTAの歌		司会者	続きまして、PTAの歌を…… (PTAの歌 2番まで斉唱し曲はフェードアウト)	
			司会者	ありがとうございました。どうぞ、御着席ください。……	
12:38	大会会長挨拶	司会台 演台	司会者 県P連会長	それでは、主催者を代表いたしまして…… (挨拶4分間ていど)	
	教育委員会挨拶	司会台 演台	司会者 長崎県教育長	※大会会長が着席するのを確認後次に、長崎県教育委員会教育長〇〇様からご挨拶がございます。…… (挨拶3分間程度)	
12:46	祝辞	演台	開催市市長	ありがとうございました。開催市を代表いたしまして歓迎の御祝辞を〇〇市長〇〇様お願いいたします。…… (歓迎の祝辞3分間程度)	
12:47	祝電の紹介	司会台	司会者	※市長の着席を確認後ありがとうございました。ただ今頂戴しました祝辞のほかに頂戴いたしました……会場入り口の……	無い場合はカット
	来賓紹介	司会台	司会者	本来ならば、御臨席賜りました…… (拍手は全員の紹介後に行うことを告げる) 以上の皆様です。盛大な拍手をお願いいたします。	
12:51	主催・共催者紹介	司会台	司会者	続きまして、主催・共催者を紹介します。 (拍手は求めない)	

12:52	表彰式	司会台	司会者  副会長	<p>続きまして表彰式を行います。……</p> <p>はじめに優良PTAとして…… 〇〇市立〇〇小学校PTA 以上〇団体です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。</p> <p>続きまして、個人表彰を受けられる方々を…… 長崎県PTA連合会前副会長 〇〇様 〇〇町立〇〇中学校PTA 〇〇様 以上の皆様です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。</p> <p>続きまして、長崎県広報紙コンクール入賞単位PTAの……、拍手は最後をお願いいたします。 〇〇市立〇〇小学校育友会様 「広報紙名」 〇〇町立〇〇中学校PTA様 「広報紙名」 以上の皆様です。おめでとうございます。 皆様、盛大な拍手をお願いいたします。</p>	
13:06	被表彰者登壇	司会台	司会者	ただ今から、賞状の授与を行います。…… (3人の登壇者は、登壇しやすい位置にあらかじめ座席を指定しておく)	スタンドマイクを演台前にセット
	賞状授与	演台前	県P連会長 県P連副会長	会長は演題の前の下手側に立つ 副会長は賞状盆を持ち、賞状を会長に渡す。	授与されるものは代表者3名
	代表謝辞	演台		代表は演台へ向かい、同時に他の2名は演台の横で待機する。 (謝辞2～3分程度)	
13:20	開会行事終了	司会台	司会者	<p>以上を持ちまして、開会式並びに表彰式を……</p> <p>※緞帳が下りた後、来賓降壇。正副会長は来賓を起立して見送る</p>	

## 7 記念講演・分科会について

- (1) 記念講演については、トークセッションやパネルディスカッションに換えることも可能です。いずれにしても、県P連の「運営方針と活動事項」や大会趣旨等に適した内容になるように努めます。
- (2) 分科会は、提言または課題発表—質疑（なくてもよい）—グループ討議—討議内容の発表—指導助言の順で進めます。グループ討議が難しい場合は、全体討議を行います。

### 基本的な大会日程

- 1 受付
- 2 開会行事（表彰式）
- 3 次期開催地PR
- 4 分科会
- 5 記念講演